

【令和4年度 学校関係者評価委員】

委員	氏名	所属	役職
委員長	鎌田 佳奈美	摂南大学看護学部	学部長
委員	木下 昌美	特別養護老人ホーム ファヴォーレ	施設長
委員	松村 到	近畿大学医学部	学部長
委員	笠井 千秋	近畿大学病院 看護部	看護部長
委員	加藤 満帆	近畿大学附属看護専門学校同窓会 礎	会長
委員	石灰 浩和	株式会社近大アシスト	総務部部長

2022年度 近畿大学附属看護専門学校
学校評価

1.評価の概要と今後の課題

基準1. 教育理念・目的・育成人材像
【評価の概要】 2021年度までに教育理念・教育目的・教育目標の周知方法については定着した。2022年度はカリキュラムマップを作成し、当校の教育に関する考え方を図式化した。こういった学校の考えについて、学生や保護者、講義担当者、実習指導者等にどの程度浸透しているかについて、確認が必要であるとする。
【今後の課題】 ・学生や保護者、講義担当者や各施設へ教育理念・目的・目標の浸透度の確認
基準2. 学校運営
【評価の概要】 学校運営として、年度初めにアクションプランを設定し、教職員に説明。年度末にはその評価をしたうえで次年度のアクションプランを設定している。各学年、委員会がそれをもとに計画立案と実施、評価するといった流れは、業務として定着している。しかし、それぞれのチーム、委員会等の意思決定システムを明確に示すものがなく、委員会規程の中にその内容を入れること、さらに看護学校のPDCAサイクルを明確化する必要があると指摘を受けた。 情報システム化については、近畿大学がSlackを導入。そのことにより教職員、病院関係者との連絡、連携がよりスピーディになった。また、学生に対しても出欠状況は1～2日の間にポータルシステムで確認できるようになった。ただ、学生自身が確認できておらず、出席時間が足りず単位未修得になったり、打刻忘れの報告が遅れるなどがあり、学生へ使用目的や方法について周知とともに双方向性のある運用が課題である。
【今後の課題】 ・PDCAサイクルの作成とともに意思決定システムの明確化 ・中・長期的な学校運営構想の数値目標設定 ・情報システム化のさらなる推進。成績開示にむけても整備
基準3. 教育活動
【評価の概要】 2022年度カリキュラムマップを完成させ、教育目標達成に向けて当校のカリキュラム編成の意図をようやく図に表現することができた。2023年度からは学生や講義担当者、実習施設への浸透を図ることが課題である。 当校の教育活動に対する評価が課題。教育目標に対する学生の自己評価は行っているが、カリキュラムに対する評価は受けていない。さらには外部からの評価も受ける必要がある。
【今後の課題】 ・教育目標に対する科目目標・単元目標の明確化（つながりを明確化） ・カリキュラム評価の構築

基準4. 学修成果
【評価の概要】 国家試験の合格率は97.2%、就職率は100%と前年度と変わらない数字となった。進学率については1.4%と減少（2名から1名）した。国家試験に対する取り組みとして、1年・2年次は国家試験を見据えた学習会を空きコマを利用して行う、学生全体の苦手科目を復習するなど、学年全体での国試対策を実施。3年次は学年全体に加えて、担当教員を決め、個別指導を行っている。ただし、使用テキストや方法など、その都度、担当者が決めている現状がある。各学年での取り組みを共有し、よりよい方法を見出していくことも必要。 卒業生の社会的活躍については継続して把握することが課題。
【今後の課題】 ・卒業生の就職先からの評価を元にした教育成果の把握 ・3年間の国家試験対策全体像の策定
基準5. 学生支援
【評価の概要】 就職支援としては、昨年度、就職希望の大半である近畿大学病院から、エントリーシートや履歴書、小論文の書き方、面接の状況から様々な指摘を受け、より具体的な説明を、業者や事務から行っていただいた。その結果、近畿大学病院への就職率は91.7%と前年度までと比べてかなり高い数字となっている。これについては2年生から近畿大学病院の説明会を入れ、就職試験も4月と早い時期に実施することで、その後安心して臨地実習や国家試験に取り組む体制ができたと考えている。 健康支援としては、新型コロナウイルス感染症関連の欠席が多く、医学部・病院の協力のもと、検査やワクチン接種などの協力をいただいた。欠席の間の学習支援としては、Zoomでの受講を許可し、できるだけ学びが継続できるようにした。メンタルヘルスへの支援体制が整い、教育要項にも掲載し、周知できていることは評価できる。
【今後の課題】 ・学習困難学生への対応体制の整備
基準6. 教育環境
【評価の概要】 IT環境が整い、学生には電子教科書とともに電子ノートの使用を推奨した。また、教員が作成した看護技術YouTubeを当校の学生を限定し、視聴できるようにするなど、教育方法にも変化が見えてきた。さらに、シミュレーション教育の充実を図るため、シミュレータを補助金で購入。臨地実習が病院でできない部分を補う際に使用した。シミュレータの利用については、さらに検討し、臨床判断能力の育成に向けて活用できるようにすることが課題である。
【今後の課題】 ・IT環境を利用した教育方法の充実 ・シミュレーション教育のさらなる充実

基準7. 学生の募集と受入れ
【評価の概要】 2022年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、オープンキャンパスはオンライン開催となった。ただし、受験対策講座や少人数制の学校見学は対面で実施。さらに病院事務の協力もいただきながら高等学校へ個別訪問を実施。推薦入試については受験生増となった。そのことにより令和5年度入試全体の受験生は増えたが、一般試験においては減少となったため、一般試験の受験生確保に向けての課題が残った。
【今後の課題】 ・入試制度の検討（入試ごとの科目設定やAO入試導入など） ・当校（専門学校）の魅力発信（オープンキャンパス、HP等）
基準8. 財務
【評価の概要】 財務基盤を安定させるために中長期計画を策定している。 学園の経理規程に則り適切に予算執行のうえ、財務帳票を作成し、ホームページに財務情報を公開している。
【今後の課題】 ・志願者数を上げ収入を増加する必要がある。
基準9. 法令等の遵守
【評価の概要】 看護師養成所運営ガイドラインに則り、教員数の確保、環境整備を努めており、学校の教育・運営に関する情報は教育要項ならびにホームページに公開されている。権利擁護は近畿大学ハラスメント防止ガイドラインに基づき、学生への周知ならびに対応が図られている。但し、臨地実習やソーシャルネットワーク使用における個人情報保護ならびにハラスメント被害防止に対する認識には個人差がみられ、継続的な指導の強化・徹底が必要である。
【今後の課題】 ・ハラスメント対応チャートの作成 ・ハラスメントや個人情報保護に関する啓発活動の強化
基準10. 社会貢献・地域貢献
【評価の概要】 2022年度から、社会学では地域の消防や医療機関へ講師を依頼、地域・在宅看護論実習では、地域の保健・医療・福祉の視点での活動の実際を見学させていただくなど、積極的に地域と連携を図る取り組みを始めた。数年前から認知症サポーターの研修会を実施（学生向け）。地域での貢献を期待したい。ただし、学校としてのボランティア活動は実施していない。新型コロナウイルス感染症の扱いが5類に移行されたことも踏まえ、地域清掃の再開などの検討が必要。法人内では教室や教材の貸し出し、教員の派遣などを実施しているが、地域にまで広がっていない。
【今後の課題】 ・学生の主体的なボランティア活動に向けての制度検討（表彰制度、ポートフォリオでの可視化など）。 ・地域連携に関する検討

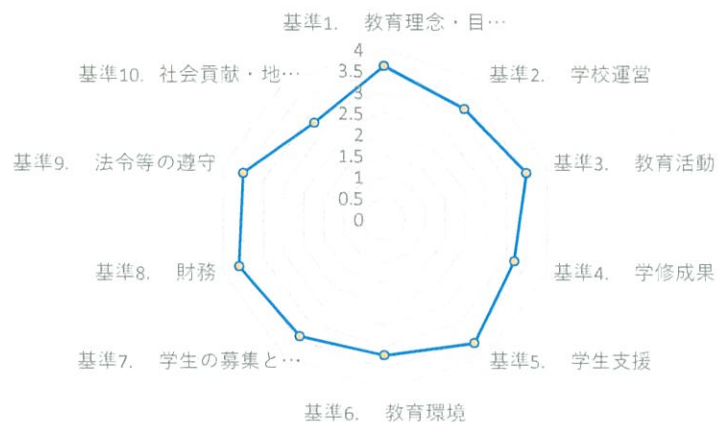
2. 評価結果

評価は次のとおり 数値化した。

適切：4 大体適切：3 やや不適切：2 不適切：1

項目	学校評価平均値	自己評価平均値
基準1. 教育理念・目的・育成人材像	3.6	3.1
基準2. 学校運営	3.2	3.1
基準3. 教育活動	3.5	3.1
基準4. 学修成果	3.2	3.2
基準5. 学生支援	3.6	3.1
基準6. 教育環境	3.2	3.0
基準7. 学生の募集と受入れ	3.4	3.3
基準8. 財務	3.6	3.8
基準9. 法令等の遵守	3.5	3.4
基準10. 社会貢献・地位貢献	2.8	1.4

学校評価



自己評価

